

妻が残したものののおかげで入居できました。
気さくな入居者の友人にも恵まれました

佐倉へゆうゆうの里 園田良一様(78歳) 令和5年9月 一人入居

学園の寄宿舎の管理責任者と
して生徒のために

もともと板前の仕事をしていたが、本格的に自営をしようと定食屋さんを始めました。お店の前に中高一貫の学園があり、体育会系の試合があるとお弁当の注文が入るようになったんです。他校の分も含め100個、200個と監督の先生がうちに注文してくれました。多い時は500個、もう徹夜ですよ。そういう繋がりができたお陰で売上を伸ばすことができました。それで20年ちよつと。50歳の時、今度は学園側から寄宿舎をつくるので、その管理・経営をやって欲しいという話が舞い込みました。女房と相談してお受け



ピンポンを楽しむ園田様

しました。赤字を出さないように配慮しながら、食材に費用をかけたデザートも提供しました。生徒はよく食べるし大喜びですよ。近所に住む保護者の方から「うちの息子がお世話になりました。食事が美味しくていっぱい食べたそうです」って言われた時は嬉しかったね。自分について来てくれた妻を突然亡くして

女房とは会社の交流会の小旅行で会いました。知り合ってから2年位して結婚。式場や旅行の費用が貯まるまで一年待つてもらい、新婚旅行は九州に行きました。明るくて童顔・・・71歳で亡くなったけど、年齢には見えない童顔でした・・・喋りやすかったなあ。一緒にいて来てくれたのは、ありがたかった。しよつちゆう一緒に出かけた旅行を思い出します。北海道は15回位行つたし、新婚旅行の九州にも行きました。京成のバラ園で買い求めた牡丹を女房が育てて、毎年綺麗に咲いていたことも思い出です。

女房は急性心筋梗塞で亡くなりました。家に帰った時が怪しいんです。誰もいないところで何にも喋らない。少しでも闘病生活があ



れば自分が介護したって気持ちになれるかもしれないが、言葉を交わして5秒で亡くなったからあつけにとられてしまいました。夜になると「あれ、居たのに」ってなる・・・ああいうのは何とも言えないね。先のことを考えられるようになったのは女房が亡くなって二年経つてからでした。

亡くなった妻が残したものが、
老後検討のきっかけに

女房の私物を整理処分しながら、残してくれたお金を集めてみました。二人で自立入居のホームに入れるところを探した時には、到底入れないとわかり諦めたことがありました。しかし、自分一人ならなんとかなるのではと思いました。せっかく女房が残してくれたものだから、自分のために使わせてもらおうと。それからホーム選びが始まりました。エデンの園、へゆうゆうの里は伊豆高原と佐倉を見学。自立入居型のホームは、親のお世話してもらったホームとは違っていました。最後まで居られて、追加の費用がかからない。そのためにも運営母体がしっかり



奥様が育てていた牡丹(園田様撮影)

していることを基準に選びました。佐倉へゆうゆうの里は気さくな方が多かったこと、従業員の人がちが親切で他人行儀でなかったことが決め手になりました。

楽しみは、5つのサークルと
飲み会と旅行

食事は入居しても変わらず自分で作っています。特に、夜は晩酌する為、つまみを作ります。自分なりに工夫して色々作って冷凍しています。入居してから人との交流もなんとかうまく行っています。恵まれたなと思っています。楽しみはサークルと飲み会と旅行。サークルはピンポン、卓球、麻雀等5つ入っています。飲み会はサークルや飲み会仲間と行きます。旅行は行けるうちはほとんどん行こうと思っています。できれば一緒に行く友達ができればいいなと思う。でも、自分が好きなことをやっているわけだから、無理があつてはいけないし、まずは、気心の知れた友人を作って行きたいです。